

**「やまなし創世」に資する
グローバルリーダーの育成**

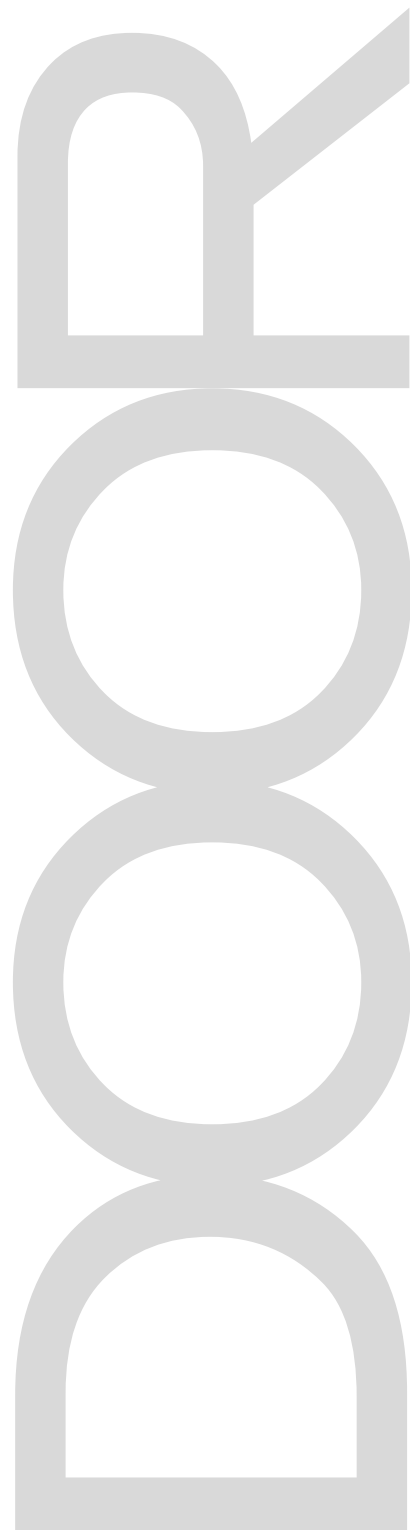


山梨県立甲府第一高等学校

令和 4 年度

研究開発実践報告書

第 3 年次 (最終年度)

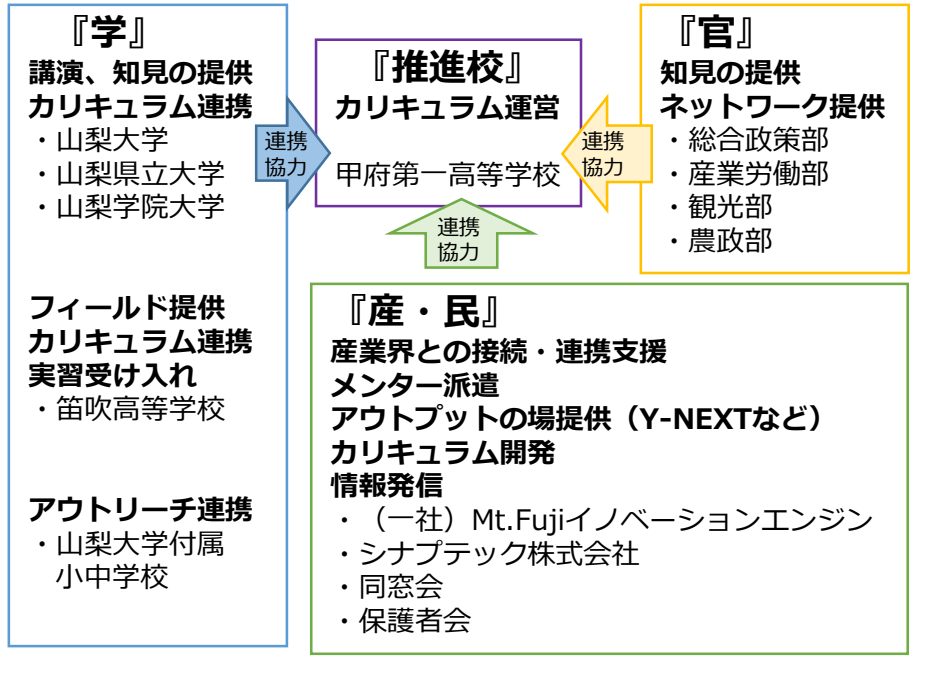


「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成

DOOR 一扉を開いて

コンソーシアムの構成

やまなし創世に資するグローバルリーダーを育成するために、
 ・甲府第一高校を推進校とした産学官民のコンソーシアムを構築
 ・オール山梨で取り組む体制を構築



管理及び指導

・山梨県教育委員会 ・運営指導委員会 ・コンソーシアム推進協議会

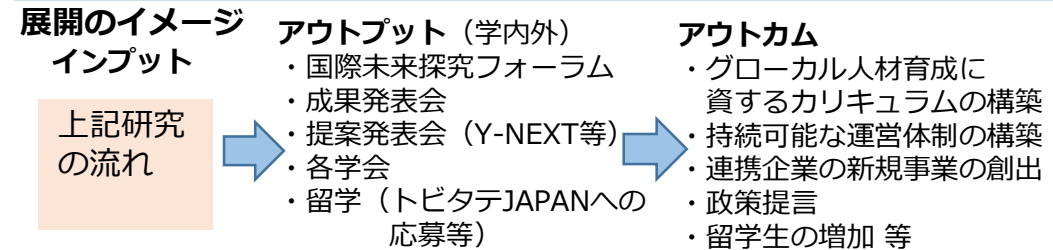
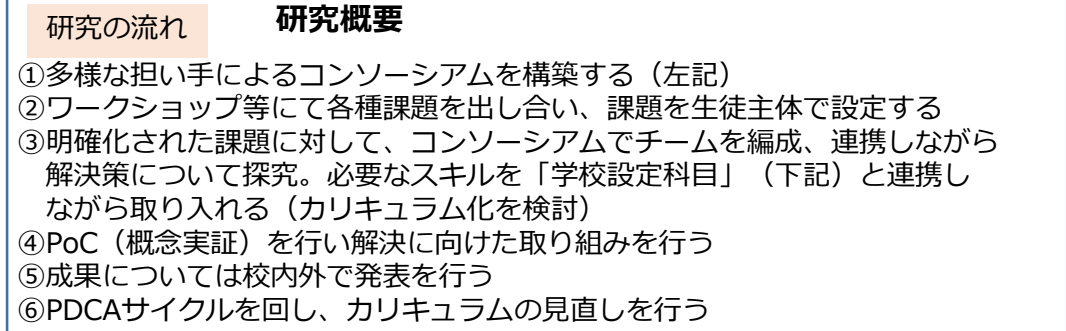
事業対象学科の生徒数（定員数）				学校全体の生徒数（在籍者数）					
学科	1年	2年	3年	計	学科	1年	2年	3年	計
探究科	60名	60名	60名	180名	探究科	59名	56名	58名	173名
普通科	60名	60名	60名	180名	普通科	179名	139名	177名	495名
合計	120名	120名	120名	360名	合計	238名	195名	235名	668名

研究開発の目標

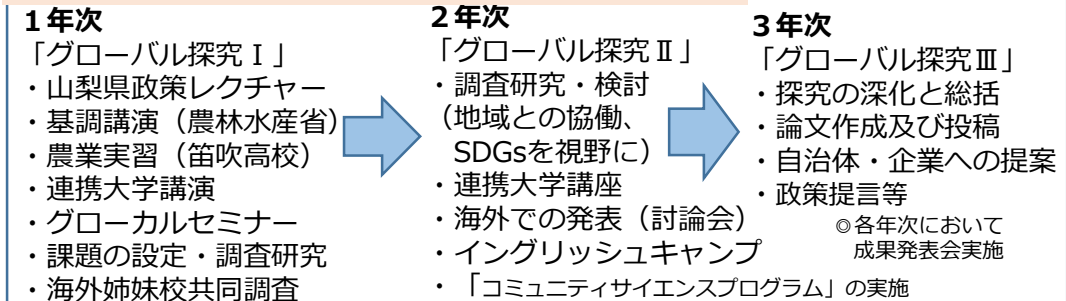
研究開発の背景

少子高齢化、急激な人口の減少 中心部の空洞化、都市の拡散、事業所数の減少等
 やまなし創世に資する人材＝グローバル人材の育成が必要

目標：『グローバル人材に必要な能力を育む体制やプログラムを構築すること』
 必要な能力「課題発見力、論理的思考力、創造力、コミュニケーション力、発信力」



学校設定科目（グローバル探究ⅠⅡⅢ）における流れ



目 次

はじめに

第1章 研究開発の概要

1. 研究開発構想名	1
2. 研究開発の目的・目標	1
3. 研究開発の概要	1
4. 学校の概要	2
5. 年間計画	3

第2章 課題研究の実施報告

8

第3章 実施の効果とその評価

1. 年度末アンケートの結果	19
----------------	----

※ 令和4年度「山梨ブランドサミット」探究活動発表内容

※ 令和4年度 教育課程表

はじめに

本校は、1880（明治13）年に山梨県中学校として開校し、今年度創立142年となる山梨県では最も古い歴史を持つ高等学校です。これまでに3万人を超える卒業生を送り出し、各分野に有為な人材を数多く輩出してきました。

本校は、伝統に立脚しながらも常に時代の先を見据えた教育活動を展開し、1991（平成3）年には英語科を設置して、国際化の進展を踏まえ、世界的視野を持ちながら社会に貢献できる人材の育成を実践いたしました。その後、学校の一層の活性化とグローバル教育の進展を目指して、2014（平成26）年に文部科学省よりSGH(Super Global High School)の指定を受け、「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」をテーマに、探究的な学びをスタートさせました。2016（平成28）年には英語科を探究科に改組して、主体的に課題を設定し探究していく力を3年間かけて育てていく取組を本格化させました。

5年間のSGH指定の終了後、2020（令和2）年には「地域との協働による高等学校改革推進事業」の「グローバル型」の指定を受け、『『やまなし創世』に資するグローバルリーダーの育成』をキャッチコピーに、グローバル人材に必要な能力を育む体制やプログラムの構築を目指す取組を進め、本年度が3年目の指定最終年度となります。この間、地域の企業・団体・大学・自治体・近隣高校等で構成するコンソーシアムを立ち上げ、外部機関との連携を強化しながら、生徒の主体的・体験的・継続的な探究活動を進めてまいりました。

生徒たちの探究活動は、「グローバル探究」という2単位の学校設定科目を設け、3年間のスパンで次のように組み立てています。1年次には、SDGsに関する社会課題を意識し、深い教養や課題解決能力を身に付けるため、各分野の専門家から講義を受け調査研究の基礎を培います。2年次では、個人あるいはグループで、それぞれが取り組む社会問題の調査・研究、グローバルな視点を持ったプランニングを行い、相互に意見発表を重ね、日本語の発表から英語によるプレゼンテーションへと発展させます。3年次は、成果を論文にまとめ、行政機関や企業、NPO法人等に出向いて提案を行います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による制約を受け、計画通りには実施できなかった活動や行事もありましたが、時期や方法の変更、代替行事の実施等により、可能な限り生徒の活動を進めてまいりました。その成果として、多くの探究班が各種コンクール等に参加し、上位入賞を果たすなど大きな成果を残すことができました。また、県内大学や自治体と連携しての活動や発信が増えたことで、甲府一高の探究活動に対する社会的な認知が進んだことも成果としてあげられます。今後も探究活動のノウハウ等これまでの成果を発展的に継承し、持続可能な探究活動のあり方を構築していきたいと考えています。

結びに、本校の指定事業の計画・立案に御助言いただいた文部科学省の皆様、運営指導員の皆様、また、御協力いただいたコンソーシアムの関係機関の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、今後とも本校の取組に御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます、挨拶いたします。

令和5年3月

山梨県立甲府第一高等学校
校長 安達 徹

第1章 研究開発概要

1 研究開発構想名

「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成
「 Door — 扉を開いて — 」

2 研究開発の目的・目標

甲府第一高等学校は創立140年を迎えた山梨県随一の伝統校であり、強行遠足等の様々な伝統行事を通じて多くの人材を輩出してきた。平成26年度からの5年間にわたりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」をテーマに、山梨が抱えている後継者不足や人口減少など、本県の産業の活性化を阻害する社会的な課題を手がかりにグローバルな視点を養うとともに、論理的な思考力やコミュニケーション力の向上を目指す取り組みを行ってきた。また、令和元年度は地域との協働による高等学校教育改革推進事業の「地域魅力化型」のアソシエイト校として地域の課題を連携校である笛吹高校と協働的に解決する取り組みを行ってきた。これらの取り組みにおいて、グローバルな視点、論理的・批判的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力が高まり、最先端の知に触れ、地球規模の課題について深く学びたいと考える生徒が増えるとともに、山梨に対する愛着が深まり、山梨を理解し発展させたいという気持ちが強まってきている。

今後はこれまでの活動をさらに発展させ、SGHで培ったグローバルな視点を大切に継承しつつ、「地域魅力化型」アソシエイト校で築いたコンソーシアム内での連携を密に「ローカル」な課題をグローバルな視点で考える「グローバル型」への転換を図る。それらの活動を通して将来、県内外または国外からも山梨を活性化させる具体的な提案や活動ができる高度な問題解決能力を有するグローバル人材を育成する。そのために以下の3つを目標とする。

- ①地元自治体や地域産業との密接な連携を強みとする総合制高校との協働実践活動を行い、さらに留学支援団体からの留学生の受け入れや、派遣を積極的に行うことにより外国人と交流する機会を増やし国際的視野を養い、グローバル人材に必要な能力を育成する。
- ②コンソーシアムでの新たな学びの協働プログラムを開発する。
- ③郷土愛を持ち、地域活性化に積極的にかかわり、将来、県内外・国内外を問わず「日本一快適で素敵な県」の創造に貢献できる人材を育成する。

3 研究開発の概要

主に学校設定科目「グローバル探究Ⅰ～Ⅲ」において探究活動を進めていく。まず山梨県総合政策課職員より山梨全体の課題や施策を確認するための講義を受ける。その上で、取りかかりとして、山梨の主要産業の1つである農業についての課題を考える。山梨の農業は、担い手の高齢化や減少に伴い、農業生産額は減少傾向にある。一方、生産(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)・販売(3次産業)を取り込む動きが広がり、農業を元気にすることで、関連する産業全体が元気になり、地域の活性化につながると考えられている。そこで、1年次、農林水産省職員からの基調講演を受け、壁新聞の製作、笛吹高校と連携して農業実習を実施、「何ができるのか。どんな問題が考えられるか」等を考察する。その後、農業から派生する「地場産業」「伝統工芸」「ワイン産業」「果樹産業」や「観光」「自然環境」または山梨の様々な社会課題にテーマを広げ、現状の分析や諸外国での取り組みをコンソーシアムと連携して調査・研究を行う。笛吹高校と農業がかかわる課題についての調査・研究の際には農業技術等のレクチャーを受け実質的発展的な探究につなげる。また、調査・研究において甲府一高が考えたプランを笛吹高校に提案し、今後の農業から派生する課題を共に考える契機とする。2年次以降は、山梨県の特長的な機械電子関連等の分野にも目を向け、各々が興味を抱いた様々な分野においてコンソーシアムから情報を得るなどして、1年次に設定した課題の再設定をおこない応用研究につなげていく。これらのプランニングの際には国内外でも周知されているSDGsの視点に基づいて探究のテーマを考える。探究成果は海外研修において英語で発表を行い、自治体・企業等で提案活動や意見交換を行ったり、学会で発表を行ったりする。令和2年度には6月20～21日、日本生活科・総合的学習教育学会全国大会(山梨大会)に本校も会場校と

して参加，生徒の発表も予定している。各生徒は最終的には，探究内容を報告書（論文）でまとめる。地域に貢献できる課題については，普及または後輩へ引き継ぐことを考え，笛吹高校を含め他の高校や地域の小中学校で共有できるようにデータベース化し，閲覧・活用できるようにする。課題探究からコンソーシアムを通じて商品化，スポンサー企業の出現を図る。

地域の小中学校には協働活動を呼びかけ，早い段階で山梨のかかえる問題点や解決方法を学ぶ機会を設ける。また，コンソーシアム推進協議会を通じてワークショップを実施し意見交換を行う。成果発表会では県内外の高校やコンソーシアムを形成している官公庁，企業または小中学校や山梨県在住の海外留学生を交えて発表し意見交換を行う。

国際的なコミュニケーション能力や創造力を強化するために，県内に在住する海外留学生を含めた外国人や中学生および地域の人達とともに，「グローバル社会の中で将来の自分」等のテーマでフォーラムを開催する。地域の人達だけではなく海外も含めた多様な人々と議論を交わす。また，笛吹高校と長期休業中において英語に限らず中国語の外国語講座，および，国際競争力スキルアップ講座（英語）を開催して，英語でのプレゼンテーション能力の向上と中国語等での基礎的なコミュニケーションが可能になるような語学活用能力を高める。

4 学校の概要（設置学科，生徒数等）

課程・学科・生徒数

R4年4月

課程	学科	1年	2年	3年	合計
		生徒数（学級数）	生徒数（学級数）	生徒数（学級数）	生徒数（学級数）
全日制	普通科	179（5）	173（5）	175（5）	527（15）
	探究科	60（2）	56（2）	58（2）	174（6）
	合計	239	229	233	701

教職員・事務員数

R4年4月

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習講師	ALT	事務長	事務職員	司書	業務員	非常勤職員	PTA職員
1	2	45	1	10	2	1	1	2	1	2	1	3

5. 令和4年度 探究活動年間計画

新型コロナウイルス3年目ではあるが、影響は昨年に引き続きのこっているが過去2年間を参考に可能な限り行事予定を実施した。

校外への実地調査・企業見学・各種大会等は、新型コロナウイルスの影響は残ってはいるが、例年実施していたものは実施した。しかし例年実施している3月のオーストラリア短期研修は実施することができない。今年度は県内でのリアル海外研修として「イングリッシュキャンプ」2泊3日で実施する。次に今年度の年間計画を示す。

DOOR ~扉をひらいて~

文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」

- DS1** 「グローバル探究Ⅰ」 山梨を見る（グローバルな視点で考える）
- DS2** 「グローバル探究Ⅱ」 山梨の課題解決に向けた探究・プランニング（グローバル展開の実践）
- DS3** 「グローバル探究Ⅲ」 山梨の魅力を全国へ、世界へ（グローバル探究の総括と発信）

「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成

● 主な取り組み：山梨の魅力発信及び地域活性化に向けた協働プログラムの開発
 山梨の農業課題を出発点とし、派生する本県の課題を世界の課題（SDGs）と結びつけながら探究し、解決のための方策を構想する。また、産学官民の地域社会コンソーシアムを構築し、地域活性化につながる共通の探究活動や山梨の魅力の発信を行う。

- 生徒に身に付けさせたい力
 グローカル人材に必要な力の育成
 ①課題発見力 ②論理的思考力 ③想像力
 ④コミュニケーション力 ⑤発信力
 ◎本年度の重点「上記項目に照らしたディスカッションカ」

令和4年度 DOOR Stage1「山梨を見る」年間指導計画（1年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅰ(2単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日倍率)		
ベイシックスタディーズ	4	15	金	④	探究オリエンテーション	一斉	1	記念館	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習・進学面においても意識を高める。本年度は昨年実施不十分であった校内ブランドサミットを簡略化して行う。	○探究科ウェルカムキャンプ(4/16) ・探究セミナー「問い」の立て方 ・NIE探究ワークショップ ・卒業生とのディスカッション ・年度初めアンケート		
				⑤	DOOR集会(校内ブランドサミット revival)	合同	1	視聴覚				
		16	土	終日	探究科ウェルカムキャンプ	一斉		視聴覚	●ウェルカムキャンプ 鋭意結束を高める、探究の基礎力を育成する			
	5	22	金	④	ベイシックスタディーズオリエンテーション(班分け)	一斉	1	記念館	●ベイシックスタディーズ ・基調講演(農林水産省講演会)を核に前後で探究、成果を壁新聞でまとめ発表する ・1グループ5名、計12グループ程度を構成 ・以後発展的に、山日「私も言いたい」新聞投稿、県政クイックアンサー等へ応募		○ODRPの活用(通年)	
				⑤	基調講演リサーチ	班	1					
		13	金	④	「農」プレゼンテーション/ディスカッション	一斉	1	記念館	●「農」プレゼンテーション 読書した本の内容を各班で発表しあい農の抱える問題を共有する。また、以後、様々な機会ですディスカッション力を高める			
				⑤	「農」新聞の記事編集	班	1	記念館				
6	20	金	⑤⑥	基調講演(農林水産省)/ディスカッション	一斉	2	記念館	●「農」新聞発表会 ・HR2会場で実施 ・準備1分→発表7分→質疑反駁5分→採点1分→2年生講評2分(12グループ編成の場合) ・1・2年生間で仮のバディークラスを構成し、指導/アドバイスを通じた連携体制を講じる。発表会では、2年生の担当班の1名以上が発表会に参加し、講評を担当する ●一高祭「農」壁新聞を一高祭に掲出	★前期中間試験(5/30~6/2)			
			27	金	④⑤	グローバルリーダー育成セミナー	一斉			2	記念館	
	3	金	④	「農」新聞作成	班	1	記念館					
			⑤	「農」新聞発表会/ディスカッション/審査 2年生講評	一斉	1	記念館					
	24	金	④⑤⑥	企業見学(株)東夢他	一斉	2	校外			●グローバルスタディーズ SDGs17項目毎に生徒を割り振り、各分科班では「農」と絡めながら探究し、個人レポートにまとめる。夏休み明けには、各分科班毎に共有し、全体の前で発表する。また、グローバルセミナーを通してグローバルビジョンを涵養していく		
			1	金	⑤⑥	県立大学講座「山梨の政策課題」/ディスカッション	一斉				2	記念館
グローバルスタディーズ	7	8	金	⑤⑥	SDGs基調講演/ディスカッション	一斉	2	記念館	●DOOR集会 ・各学年の進捗状況の報告会 ・2・3年生の引き継ぎ探究(d-STOCK)希望班は任意の書類にまとめてプレゼンする ●「農」シンポジウム ・笛吹高校と連携し実施 ・「農」探究の集大成として各パネラーの基調講演を受けディスカッションを行う。	○「農」シンポジウム(7/24) ○先端企業訪問(8/9) ○探究科登校学習会(8/2~5) ○オープンスクール 探究科説明会(8/27・28)		
				④	SDGs探究	班	1	記念館				
	15	金	⑤	DOOR集会(各学年報告会)	合同	1	視聴覚					
	夏季休業	7月24日(日)「農」シンポジウム		班	校外	●中国語特別講座 国際競争力アップ講座として希望者に向け実施(1・2年生合同)年間10回を計画 ●八ヶ岳SDGsコミュニティ SDGsの普及を目指すNPO法人八ヶ岳SDGsスクールと連携しながら協力的に推進する。任意のSDGsテーマ設定の下、県立図書館で月例ミーティングを実施(希望参加)。また、プレゼンターとしての参加も有意義						
		8月9日(火)先端企業見学(伊那食品工業株式会社→アルソフ慧央グループ)		個人								
		8月10日(水)エネルギー研修(理化学研究所)(希望者)		個人								
		・DRP、新聞投稿執筆の推奨 ・SDGs探究 ・SGU等オープンキャンパス		個人								
	8	26	金	④	SDGs探究発表会/ディスカッション	班	1	記念館			●中国語特別講座 国際競争力アップ講座として希望者に向け実施(1・2年生合同)年間10回を計画	★前期末試験(9/5~8) (台湾研修/笛吹高校と協働)(9月中旬)
				⑤	SDGs探究発表会/ディスカッション	班	1	記念館				
	9	2	金	⑤⑥	グローバルセミナー(AI関係予定)/ディスカッション	一斉	2	記念館			●八ヶ岳SDGsコミュニティ SDGsの普及を目指すNPO法人八ヶ岳SDGsスクールと連携しながら協力的に推進する。任意のSDGsテーマ設定の下、県立図書館で月例ミーティングを実施(希望参加)。また、プレゼンターとしての参加も有意義	
⑤⑥				グローバルセミナー(県政策関係予定)/ディスカッション	一斉	2	記念館					
16		金	④	一探未来フォーラムプレステージ(1・2年合同)	一斉	1	視聴覚					
	⑤		グローバルセミナーまとめ	合同	1	記念館						

9	17	土	午後	一探未来フォーラム(1・2年合同)		合同	視聴覚	●一探未来フォーラム 事前に生徒主体でテーマを作成。プレステージを含め山梨と世界の課題に向き合う	○一探未来フォーラム(9/17)	
	30	金	④	プレゼンジャムセッションオリエンテーション (探究顧問発表)			1	●プレゼンジャムセッション ・進路希望も考慮しながら新規に各班4(5)名、12グループを編成(次年度以降もこの班での継続が原則)。ポスターを作成し校内ブランドサミットにはこのテーマで臨む。なお、このセッションから探究顧問を配置する		
10	7	金	④⑤	県立大学講座「取材論」 リサーチ		一斉	2	記念館	●サイエンスダイアログ ・理系研究者による英語による講義。1、2年合同企画 ★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査の引率 ③ポスター等の作成及びプレゼン指導 ●実地調査 ・インタビュー活動はじめ、講演会やボランティアへの参加等、探究活動の要となる現場活動 ・極力週休日や金曜の午後を活用するが、欠欠も可能。なお、所定の書式を提出 ・アンケート調査については安易に考えず探究顧問とよく相談の上実施する ・各種コンクールへの参加も推奨する ●Y・NEXTとの連携 ・主に2年生の参加を促すが、1年生においても探究が進んでいる班は参加可能 ・詳細は、2年生の欄を参照	
	14	金	⑤⑥	サイエンスダイアログ(1・2年合同) 県立大学取材論		合同	2	視聴覚		
	21	金	④	リサーチ		班	1	記念館等		
	28	金	④							
			⑤							
			⑤							
11	4	金	④	プレゼンセミナー(県立大学)		一斉	1	記念館		
	11	金	⑤⑥							
	18	金	⑤							
			⑥							
12	25	金	④	リサーチまとめ		班	1	記念館 LL教室 PC室等	★後期中間試験(11/14~17)	
	2	金	④	ポスター編集			1			
	9	金	④	中間報告会(探究顧問)			1			
	16	金	④⑤⑥	企業見学			一斉			2
1	6	金	⑤	ポスターデータ提出 リハーサル		合同	1	●校内ブランドサミット ・HR4会場で実施 ・1、2年混合班の4つのチャックを作り双方向に発表しあいながら探究を共有し、高め合う ・準備1分→発表7分→質疑反駁9分→採点1分→バディー班、教員講評7分 ・質疑反駁、ディスカッションも重視する ・山梨ブランドサミットの予選会を兼ねる。原則として、ポスター、プレゼンの総合点の上位班の中から教員評価を加え、ブランドサミット全体会出場班を決定する ●メンターブラッシュアップ ・Y・NEXT関係の企業人講師による各班のメンタリング、ブラッシュアップ会 ・特に1年生に向け実施。探究の「問い」を重視	●DOOR集会 ・山梨ブランドサミットに向けたマニュアルの読み合わせをし、モチベーションを高めるとともに、各人が責任もって行動できるようにする。 ●山梨ブランドサミット ・年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2、3階等を使用 ・その他、全班のポスター、探究実績報告書、その他成果物を掲出 ●新探究班編成に向けて ・現状の班員、探究内容で継続することを原則とするが、上級生の引継ぎを含め、必要に応じて若干の班員間の移動、探究内容、方向性の修正は可能	
	13	金	⑤⑥	校内ブランドサミット(1・2年合同)			2			1・2年各HR
	20	金	⑤⑥	プレゼン修正(社会課題探究/実地調査)			1			記念館 LL教室 PC室等
	27	金	④				1			
2	3	金	④	DOOR集会(ブランドサミットマニュアル読み合わせ) 年度末アンケート		合同	1	視聴覚	★後期期末試験(2/21~24) ○オーストラリア研修(3/9~17)	
	10	金	④				1			
	17	金	④	プレゼン修正(社会課題探究/実地調査)			1			記念館 LL教室 PC室等
3	10	金	④	ポスターデータ・探究活動実績報告書提出		班	1	記念館等	○山梨ブランドサミット(3/18)	
	17	金	④	リハーサル			1			
	18	土	終日	【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)		全校	1	校内		
合計時数							64			

令和4年度 DOOR Stage2「山梨の課題解決に向けた探究・プランニング」年間指導計画（2年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅱ(1単位)／グローバル公共(1単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日催事)
4	15	金	④		オリエンテーション アンケート 探究計画書作成	一斉	公1	視聴覚	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習・進学面においても意識を高める。本年度は昨年実施不十分であった校内ブランドサミットを簡略化して行う。	
			⑤		DOOR集会(校内ブランドサミット revival)	合同	G1	視聴覚		
	22	金	④		コンクール対策オリエンテーション	一斉	公1	視聴覚	●各種コンクールへの応募 2年生は必須。企業や大学、民間が主催する各種コンペや論文コンクールなどを活用	○地実調査(通年)
			⑤		探究計画書提出		G1			
	6	金	④		リサーチ(実地調査) (探究顧問・英語顧問発表)		班	公1	視聴覚	●実地調査 ・インタビュー活動はじめ、講演会やボランティアへの参加等、探究活動の要となる現場活動
⑤										LL教室 PC室等
5	20	金	④		論文ゼミ	一斉	公1	視聴覚	●論文ゼミ 本校国語科教師が講師。探究論文編集に向け、早い段階で基礎基本を習得する	
			⑤				G1			
	27	金	④		リサーチ(実地調査)		公1			
6	3	金	④			班	公1	視聴覚	★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査、コンクール等への引率 ③レジュメ、PPT、論文の作成およびプレゼン指導とデータ管理	★前期中間試験(5/30~6/2)
			⑤							
	11	金	④		リサーチ/1年生壁新聞講評		公1			
7	24	金	④			班	公1	視聴覚	●一高祭 1年時ポスター、探究実績報告書は一高祭にて掲出	○一高祭(6/16~18)
			⑤							
	1	金	④		リサーチ(実地調査)		公1			
8	8	金	④			班	公1	視聴覚	●ハケ岳SDGsコミュニティ SDGsの普及を目指すNPO法人ハケ岳SDGsスクールと連携しながら協力的に推進する。任意のSDGsテーマ設定の下、県立図書館で月例ミーティングを実施(希望参加)。また、プレゼンターとしての参加も有意義	
			⑤							
	15	金	④		中間報告会 夏季休業対策		公1			
9	26	金	④			班	公1	視聴覚	●DOOR集会 ・各学年の進捗状況の報告会 ・2・3年生の引き継ぎ探究(d-STOCK)希望班は任意の書類にまとめプレゼンする	○探究科登校学習会(8/2~5)
			⑤							
	2	金	④		リサーチまとめ		公1			○オーブンスクール 探究科説明会(8/27・28)
9	9	金	④			班	公1	視聴覚	●グローバルステップ1(セブ対策) セブ島研修旅行を見据え、現在までの探究活動をイングリッシュプレゼンテーションセミナー講師陣や英語顧問の指導助言を受け英語レジュメ、PPT等にまとめる	★前期末試験(9/5~8)
			⑤							
	16	金	④		一探未来フォーラムプレステージ(1・2年合同)	一斉	G1			○台湾研修(9月中旬頃 苗吹高校と協働)
10	16	金	④		リサーチまとめ(日本語版仮完成)	合同	公1	視聴覚	●イングリッシュプレゼンセミナー ・外部講師人によるセミナー&ワークショップ ・探究成果を英語でプレゼンするための導入ステージ。理論編でレクチャー受け、実践編まで各級の成果を英語に翻訳講師陣(県内ALT)にアドバイスをいただく ・なお、その後の指導は英語顧問が担当する	
			⑤				班	G1		
	17	土	午後		一探未来フォーラム(1・2年合同)	合同				○一探未来フォーラム(9/17)
30	金	④		研修旅行スタディー	班	公1	HR等	●一探未来フォーラム 事前に生徒主体でテーマを作成。プレステージを含め山梨と世界の課題に向き合う		

10	7	金	⑤⑥	イングリッシュプレゼンテーションセミナー(理論)	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	班	公G1	視聴覚	●研修旅行スタディー ・研修旅行基調講義を旅行者から受け、別別に任意の課題を設定、探究	
	14	金	④⑤	サイエンスダイアログ(1・2年合同) 英語PPT編集		合同	公G1	視聴覚	●サイエンスダイアログ ・理系研究者による英語による講義。1、2年合同参加	
	21	金	④	(英語顧問発表)		班	公I	視聴覚 LL教室 PC室等	●Y・NEXTとの連携 ・県、Mt.Fujiイノベーションエンジンが主催する高校生向け起業チャレンジ事業 ・キックオフイベント→予選→本選と進む過程で各企業人等が参加班にメンターとして懇切丁寧なメンタリングを頂ける ・探究のその先の実践的なステージで2年は参加を推奨する	○イングリッシュプレゼン実践セミナー(10/29)
			⑤	英語PPT編集						
	28	金	④	PPT仮完成/プレゼンリハーサル						
29	土	午前		イングリッシュプレゼンテーションセミナー(実践)	視聴覚等					
11	4	金	④	英語プレゼン修正	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	班	公I	視聴覚		
			⑤	英語プレゼン修正		公I	LL教室			
	11	金	④	研修旅行スタディー発表会		班	公I	視聴覚 LL教室 PC室等	●セブ島研修(本年度は国内実施) 各グループの探究成果を外国人留学生(予定)にプレゼン・発信し、ディスカッションを通してグローバルな視点を涵養する	○研修旅行現地発表会(12/6~9)
			⑤	研修旅行スタディー発表会						
	18	金	⑤	サイエンスダイアログ(1・2年合同)						
25	金	④	英語プレゼン修正	公I	LL教室					
		⑤	英語プレゼン修正	公I	PC室等					
12	2	金	④	研修旅行プレゼンリハーサル	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	班	公I	視聴覚		
			⑤	研修旅行プレゼンリハーサル		公I				
	6 5 9	火 金	終日	研修旅行(国内/現地プレゼンテーション)		一斉		国内		
16	金	④	社会課題探究/プレゼン修正	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	班	公I	視聴覚			
		⑤	社会課題探究/プレゼン修正		公I	LL教室				
		⑤	社会課題探究/プレゼン修正		G1	PC室等				
1	13	金	⑤⑥	校内ブランドサミット(1・2年合同)	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	合同	公G1	1・2年各HR	●校内ブランドサミット ・HR4会場で実施 ・1、2年混合班の4つのチャックを作り双方向に発表しあいながら探究を共有し、高め合う準備1分→発表7分→質疑反駁9分→採点1分→バディー班、教員講評7分 ・質疑反駁、ディスカッションも重視する ・山梨ブランドサミットの予選会を兼ねる。原則として、ポスター、プレゼンの総合点の上位班の中から教員評価を加え、ブランドサミット全体会出場班を決定する	
	20	金	⑤⑥	校内ブランドサミット(1・2年合同)		合同	公G1	1・2年各HR		
	27	金	④	社会課題探究/プレゼン修正		班	公I	視聴覚 LL教室 PC室等		
2	3	金	④	ライフプランニング育成講座(普通科合同)	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	合同	公I	視聴覚	●メンターブラッシュアップ ・Y・NEXT関係の企業人講師による各班のメンタリング、ブラッシュアップ会 ・2年生は希望に応じて参加(1年生が中心)	
	10	金	④	社会課題探究/プレゼン修正		班	公I		●DOOR集会 ・山梨ブランドサミットに向けたマニュアルの読み合わせをし、モチベーションを高めるとともに、各人が責任もって行動できるようにする。	★後期期末試験(2/21~24)
			⑤	社会課題探究/プレゼン修正		G1	HR等			
3	17	金	④	DOOR集会(ブランドサミットマニュアル読み合わせ)年度末アンケート	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	合同	公I			
			⑤	社会課題探究/プレゼン修正		公I				
	10	金	④	英語レジュメ・探究活動実績報告書提出		班	公I		●探究論文(探究成果報告書) ・2年生の段階は仮提出(表記は日本語) ・研修旅行後より、山梨ブランドサミットの取り組みと並行して進行させる	
3	17	金	④	リハーサル	(発展スキル) Y・NEXTとの連携 (グローバルスキル) 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策 (必修スキル) 実地調査、各種コンクール等への参加 論文対策	班	公I			
	18	土	終日	【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)		全校		校内	●山梨ブランドサミット ・探究活動発表会は年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2、3階を使用 ・その他、全班的英語レジュメ、探究実績報告書、その他成果物を掲出	○山梨ブランドサミット(3/18)
				(3/24)探究論文仮提出						
合計時数						公共35 G探33				

令和4年度 DOOR Stage3「山梨の魅力为全国へ、世界へ」年間指導計画（3年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅲ(1単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日催事)	
4	4	15	金	⑤	DOOR集会(校内ブランドサミット revival) アンケート	合同	1	視聴覚	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習、進学面においても意識を高める。本年度は昨年実施不十分であった校内ブランドサミットを簡略化して行う。	○提案活動(夏季休業までに終了)	
		22	金	⑤			1				
5	5	6	金	⑤	ポスター/論文作成	班	1	HR等	●3年次のコンセプトは「個への還元」 ・S&Iメソッド(Sharing and Integration)2年次までグループで分担して探究してきた内容を「ポスター」、「探究論文」を共有することで、個人でも発表できるレベルに高める		
		13	金	⑤							
		20	金	⑤							
		27	金	⑤							
6	6	3	金	⑤	ポスター/論文作成	合同	1	視聴覚	★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査、ファイナルプロポーザル時の引率 ③ポスター、論文、PPT等の作成およびプレゼン指導とデータ管理 ●一高祭 ポスター、論文、探究実績報告書は一高祭にて掲出 ●ファイナルプロポーザル ・企業、大学、行政、民間など、外部機関に探究成果を提案(報告) ・論文コンクール他イベントの開催やコンクールへの応募に振り替えることも可能	★前期中間試験(5/30~6/2)	
		10	金	⑤	論文・ポスター・探究実績報告書 最終〆切り日	班	1				○一高祭(6/16~18)
		24	金	⑤	提案・発表活動等	班	1	HR等			
7	7	1	金	⑤			1				
		8	金	⑤	3年間のまとめ・アンケート	一斉	1				
		15	金	⑤	DOOR/探究科集会(各学年報告会)	合同	1	視聴覚			
夏季休業											
8	8	26	金	⑤	(総合的な探究の時間)	個人もしくは任意のグループ	1	HR	●グローバルステップ(キャリアアクション) ・推薦入試等で早期に結果が出た者は、さらに探究活動を深め、年度末に行われる公開発表に臨む ・キャリアに結び付け任意のグループもしくは個人単位で、新たな探究に切り替えるも可能 ・言語は任意	★前期末試験(9/5~8)	
		2	金	⑤							
9	9	9	金	⑤			1				
		16	金	⑤							
		7	金	⑤							
		14	金	⑤							
10	10	21	金	⑤			1				
		28	金	⑤							
		4	金	⑤							
		11	金	⑤							
11	11	18	金	⑤			1			★後期中間試験(11/14~17)	
		25	金	⑤							
		2	金	⑤							
		16	金	⑤							
12	12	6	金	⑤			1				
		13	金	⑤							
		20	金	⑤							
		27	金	⑤							
1	1	6	金	⑤			1				
		13	金	⑤							
		20	金	⑤							
		27	金	⑤							
2	2	6	金	⑤	(自由登校)		1		●山梨ブランドサミット ・探究活動発表会は年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2、3階を使用 ・3年生は該当者のみ出場 ・その他、全班的ポスター、論文、探究実績報告書を掲出		
		13	金	⑤							
		20	金	⑤							
		27	金	⑤							
3	19	土	終日	* 該当者のみ 【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)				校内		○山梨ブランドサミット(3/18)	
合計時数							33				